

平成 21 年度第 9 回 下山地域会議 会議録

【日 時】平成 21 年 12 月 17 日(木) 19:00 ~ 21:00

【場 所】下山交流館第 11 会議室

【出席者】委員 12 名出席 3 名欠席
事務局 原田 西山 鶴田 加藤

【次 第】1 あいさつ

2 会議録署名委員指名

3 前回会議録の承認

4 協議事項

(1) 提言・提案内容の検討について

(2) 分科会ごとのまとめに対する協議について

5 今後の予定

第 10 回地域会議

1 月 21 日(木) 19 時より 下山交流館 11 会議室

あったかフェスタ

1 月 24 日(日) 19 時より 下山交流館 12 会議室

【内 容】

1 あいさつ

(会長) みなさんこんばんは。残りが数回となりました。まとめに入ります、お願いします。

2 会議録署名委員指名

3 前回会議録の承認

全委員承認

4 協議事項

(1) 提言・提案内容の検討について

(事務局) 子ども分科会の内容から検討を始めます。平成 19 年に保健師が引き上げられ、現在は足助に地域保健課が創設され、地区内で検診として義務的に集まる場、母親が集まる場は失われてしまった。本庁に行けば、下山地内の人に限り出会えるわけではなく、逆に検診に行きながら街に買い物に行くという口実もできた。そんな中で、保健師に再度各地域で検診など行ってもらいたいのか、そうでないか、その理由は、ということを検討していく。

(委員) 母親の集いの場にもなる交流が図れる。地域振興にも寄与できる。常駐ではなくても派遣がしてほしいと思う。

(委員) 受ける側もだが、する側にとっても顔が良く見えて互い安心して相談もできやすいと思う。

(委員) 地区の母親が、地区の中で相談できる場を確保してあげて、いろいろな人と親しくなれ、自分の持っている悩みなどを打ち明けられる場を地区で支えてあげるべきだと思う。

(委員) 半義務的に同年代の子を持つ親が集まる場は、作る方が良い。そのためには保健師が必要。

(委員) 地域コミュニティは顔と名前を覚えることからだと思うため、ぜひ、出かけて検診など、

親の出会える場を作ってほしい。

(事務局) 必要か必要ではないかと言えば、絶対必要。ただ、子育て支援センターも保育師もいる。常駐か派遣か。義務的に集まるのは検診だけしかないのか。もう少し理由を検討したいと思う。

(会長) 引き揚げる時に反対だった。決まってしまったものだから、何も言うことがない。

(委員) 前を知っている、お母さん達は話が出ている。なくなっただけからの検診を受けているお母さんは前を知らないから、こんなもんだと思っている。

(委員) 地元で検診がなくなったことによって、地元でお母さん達が集まる場が無くなったことが問題になっている。本庁と地元で行われる場合との違いは、その場でお母さん達が集まって、いろいろな会話ができたり、相談できたりする。

(委員) 支所の役割も、本庁で良いと言われればそれまでだが、それぞれの地域に支所があるのは、いかに住民に身近でサービスをするなどのためにあると思う。波及効果を期待するのならば、地元の要望や意見をよく聞いて、地域に目を向けてきめの細かい部分があってほしいと思う。

(委員) 子育て支援センターは園長が兼ねていて、園長はこども園の方で忙しい。支援センターをメインで常駐している人物はいない。建物も奥まっけていて入りにくい。

(委員) 乳幼児、子どもを産んだばかりの母親が出会える場所が子育て支援センターとは考えにくい。何か強制的に出会える場所が、常駐ではなくても、毎月1回でも出会い顔見知りになり、話ができるようになることが大事なことだと思う。

(会長) 単なる検診ではなく、その波及効果として、人と人をつなぐ場所として必要。

(事務局) 保健師のサークルなどへの派遣、相談に対する訪問は現状もある。義務的・強制的と言われる自発的ではなく保健師が何かをしてくれるものは、今はない。

(委員) 他の地域も1回の検診で60組など、量が多い。下山に住んでいるというのは、自分で言わなければわからない。

(委員) 他の地域で行っていたら出会わない。下山で行われれば移動時間も少なく、ふれ合う時間も作れる。自分で声をかけられない人も出会いの場としてあり、下山地内の人と出会う。下山の地域の中で子育てをしていくことを話し合える場が、まどいにあった方がよい。

(委員) 地元の子は地元で育てたい。

(委員) 月に1回くらいの派遣はお願いしたい。

(委員) 子ども家庭課の事業で、ベビークラスというのがあり、市内3箇所位で3ヶ月の子を持つ子育てに慣れてきたが不満が積もってきた位の母が集まって、近い所に住んでいる方でグループを作り、悩みを出し合い、保健師や母推が答えを出す。それを下山地内で何歳児という設定なく、月に1回位やってもらえれば。

(委員) 定住の話も出ているが、住みにくいから下山から人が出て行く。住み良い環境を整備する1つとして、お母さん達の出会いの場と人の輪を作る。

(委員) 母親が何度も家を出るのは大変。義務的に行って、なおかつ、母親と出会えて、グループで話すことができれば、良い出会いの場だと思う。検診に1回でもできれば、誰かと出会うという場を作ることが行政的にしてほしいと思う。

(事務局) まとめます。検診など強制的・義務的に集まれる場で、下山地内の親が出会うことが大事だから、そういう機会が必要。子育てしやすい、住み良い地域づくりをしましょうということで、保健師による検診を復活してほしいという要望でいいですね。

委員了承

(事務局) 公園を整備したいという内容で、自治区で遊ぶという広場であれば、土地が確保でき要

望があれば公園課で整備できる。下山に求められている公園像が不明確なため、公園整備についてどうするのかを話し合う。

(委員)自分は山や川で育ってきて、子どもも多くいた。今は子どもも少なくなり、必ずしも施設が必要ではないと思う。これからは老人ばかりになってしまう。若い人が残れる方策は必要。

(委員)東部子ども園に迎えに行き4時までしか遊べない。まだ遊び足りないともどいの丘に行く。それで帰るのだが、外の遊具がないので、あったらいいのにと皆言っている。

(委員)最初に考えたのは、運動広場にあるテニスコートを変更すれば、駐車場もある公園になると思った。それはできないとのことで、運動広場には三角のスペースもあるし、何か1つあればと。

(会長)昔は田んぼでサッカーしたりしていたが、今の子はやらない。家に帰ってから、サッカーをやりに行ける広場が学校ではなくてであると良いと中学生が言っていた。

(事務局)年代によって公園の種類が違っていると整理していた。小中学生は広場、未就学児などは遊具のある公園。下山地内に必要だというのは、どんなものになるか。

(委員)市の施設は有料だから、誰でも気軽に使えるものが良いというのがスタート。

(委員)まどいの丘でも子どもが一人で遊ぶわけではなく、数人で遊んで楽しいと思うから、地区ごとに公園を作っても集会所の遊具を活用すればよい。子ども園が終わった後に遊びに行くのであれば、園庭を長く開放してもらえるようお願いするようにしたらどうか。

(委員)園庭には遊具がそろっているから十分遊べる。開放してもらえれば。

(委員)今ある学校を開放して遊ぶことができるようにすれば、十分だと思う。鍵はかかっているが、開けにくい状況である。

(委員)集団下校をするようになってから、帰宅した後に校庭で遊ぶことが少なくなった。地域会議でどうこうって言うより、地区で考え要望してもらう方が良いのでは。

(委員)この地域には公園デビューのように出会える場としての公園は必要に思う。下山に溶け込んでもらうためには、新しい人が入っている地域に、ブランコなどがある公園があると良いと思う。

(委員)アンケートの結果を見ると、自然があって遊べると思ってきたが、子どもを連れて行ける所はないと回答がある。田んぼや山ではなく、ちょっとした広場があると良いと思う。

(会長)地元にある公園は自治区に考えてもらえば良い、それでいいですよ。香恋の館の対岸のとまどいの丘はどうでしょうか。

(委員)香恋の館は傾斜をいかした遊具を、まどいの丘は余っている所があるから、それを上手く使って整備できると良い。

(委員)まどいの丘には作れる余地があるので、香恋の館の対岸にあるようなスペースをまどいの丘にも作ることを要望した方が良いと思う。

(委員)まどいの丘の小山の辺り。慰霊碑の移転と合わせて整備できないか。

(事務局)まとめとして、まどいの丘に広場の整備を要望するということが良いですか。

(委員)滑り台、ブランコ、かわいい椅子、何かがあれば、子どもを遊ばせる場所だとわかる。

(委員)香恋の館の対岸は自然な落ち葉などで遊べるもので十分だと思う。まどいの丘は幼稚園のお母さん達が集まるということで、遊具などで少し遊ぶことができるようになれば良いと思う。

(委員)香恋の館の対岸はあのままが良いと思う。まどいの丘を整備する。

(事務局)まどいの丘に、外で遊ぶことができる遊具、広場の整備ということで来月もう一度検討。

委員了承

(事務局)次に定住に関するところで、今回の地域会議で勉強会は必要か、誰にでももらうかを検討。地域会議委員だけではなく、集落の代表者に一緒に勉強してもらいたいが、30集落全部は難しい

ため、出てこない集落に対して情報提供が必要。支所だより、区長が説明するなど、どう情報提供するのか。22年度地域予算提案事業として、30集落のワークショップで受け入れ情報の整理などを行い、過疎対策プロジェクトの空き家情報バンクとリンクさせる。8月の調査で下山地内は空家21空地18。調査で出てきたものに意向調査をし、運用開始が2月中旬からだが、下山地域はまだ条件が整っていないため、整った段階で運用することになる。1月区長会で勉強会、代表者の話を依頼し、2月中旬に代表者を選出、勉強会の開催ができればと思う。前回課題にあがっていた、どういう勉強会が必要か、参加してもらう人はどういう人にするかを検討。

(委員) 地域のことを分かってもらうために、地域のことをよく知っている人に出てきてもらい、気軽に話ができる勉強会が必要ではないかと思う。

(委員) 何かする度に実行委員会などを作るため、人が少なく、同じ人に役が付き、負担になる。

(委員) 地域全体で勉強会をやるため、最初は各自治区3名位出てもらわないと、きちんと伝わらないと思う。各自治区に伝達してもらい考え、自分達がやるのか、やらないのか判断をしてもらう。

(事務局) 集落ごとに色が違うのではないかとこのところから、30集落としてきた。勉強会に出てきてもらい、集落に戻してもらって作業をするのに誰が適任か。その集落の人でなければならないのか、代表でも集落に話ができるのか。今回の勉強会は聞くのは代表者だが、集落に持って帰って話し合いをしてもらうには、どんな代表がいいのか。

(委員) 1年で代わるのではなく、2年3年と継続できると良いと思う。役は1年で代わる。

(委員) そう考えるのも1つの方法だが、継続と考えると人が出てこなくなる。自治区ごとに考えて代表をだしてもらい、自分のところは定住に取り組むと決めたところは継続してできる人を出してもらうようにすればいいのでは。

(委員) 大沼にも空家が多いが、使えない家が多い。予算措置して改修してくれれば考えられるかもしれないが、そうでなければ難しい。

(委員) 入りたいと思う人は自分がお金をかけてでも入りたいと思うような人でなければ。本当に入りたいと思う人は、この場所が良くて住むわけだから、売りたいに人を入れるのは私は反対。

(委員) 受け入れ確認を集落で考える。

(委員) 本当に危機感があり、自分達で行動を起こそうとするための意識付けを勉強会で。

(委員) 勉強会では具体的なことではなく、地域を理解し深めるため。何かやれることをやらなければいけないと気持ちを切り替えてもらえるような勉強会をしてもらう。土台を。

(委員) 自分が若いと思っているから、危機感がない。5年10年経って、お宮ののぼりが立てられなくなり、草刈もできなくなり、そういう状況が見えていても何もできてこない。

(委員) まず自分の家のことも解決しながら地域のことを解決しなければいけない。

(委員) 後継者がある家とない家では発想が全然違う。まずは子ども達が出て行かないように。

(委員) 自分の家は子が定年になったら帰ってくると言う。あまりにも住みにくいために帰ってこない方がいいのではないかと思う。

(事務局) 今の話を来年度事業のワークショップで考えて行っていきたい。それをやるために前段階でやらなければいけないことで、勉強会などが出てきている。

(委員) 提案ですが、最初から自治区の少ない人数でやり始めると増やすことは難しいと思うので、最初は30集落、一番集落のことをわかりそうな人に出てもらい、どういう勉強会をしていくのかを理解してもらう。後は自治区で何人出すかを決めていただく。自分の地区は集落で色が違うから、全集落から出るなど、段階的に人の出てくる数を調整していく方が良いと思う。最初は全集落に出していただき、段階的に自治区で調整というのはいかがですか。

(委員)最初の初歩的な所は、全域共通の認識でいなければいけないと思う。後は、自治区によって温度差があるため、次は自治区で選択してもらえばいいと思う。

(事務局)地域会議としては、最初の勉強会は30集落全ての人に出ていただきたい。その後、継続的に出ていただく人数は、区で決めていただくと区長会で依頼する。勉強会の中身は初歩的な人口データの周知や意見を聞きながら22年度につなげていくということで、よかったですでしょうか。

委員了承。

(事務局)しもやま地域バスにも利用促進協議会を作り、利用促進を検討していきたいと思い、来年の1月に設立準備を進めている。7つの自治区、商工会、観光協会などから組織し、地域会議からも1名出て協議をしていただくことになるので、ご承知おきください。

(会長)以上で、第9回地域会議を終わります。ありがとうございました。